

第 1 回 アドバイザー会議 議事録

日時	令和 6 年 2 月 20 日 (火) 14 : 00~16 : 00
開催場所	掛川市生涯学習センター第 2 会議室
出席者	アドバイザー 安藤公哉 (掛川市文化財団) 飯田一貴 (大東吹奏楽団団長) 小澤直明 (学校法人くるみ学園 理事長・園長) 落合幸子 (ピアノスクールすみれ代表) 高橋恭子 (GALA 工房代表・かけがわ茶エンナーレ音楽部門統括) 中山都 (掛川シティコーラス) オブザーバー 安村侑祐 (文化スポーツ振興課) 事務局 片瀬正博統括館長、鈴木憲一館長、永田順副館長、八木順一副館長

掛川市生涯学習センター施設への要望

施設の老朽化について以下の指摘があった。

- 床 (インターロッキング) の凹凸
- ホール座席の劣化
- 催物広場の雨漏り・人工芝の汚れ
- 緞帳裏幕などの舞台設備全般

その他、以下の要望事項があった。

- トイレの洋式化
- 照明の LED 化 (節電)
- 第 4 会議室へのエレベーター (障がい者、高齢者または荷物運搬時) の設置
- 女子トイレの不足 (ホール使用時に長い列ができてしまう)
- 駐車場不足 (現在 320 台うち屋外広場 70 台は雨天時使用不可)

施設利用状況と今後の取組の説明

- 三館の施設利用状況 (令和 5 年度自主・共催事業) について説明。

- 今後の取り組み（令和 6 年度自主・共催事業）について説明

アドバイザーとの意見交換

アドバイザーと「三館」の利用促進をテーマに意見交換を行い、以下のような意見が出された。

- 子供達の成長過程に合わせた場の提供をしてほしい。
- （コロナ禍を機に）「キラリ！ふれあいコンサート（掛川市小中学校合同音楽発表会）」がなくなり、市内の 4 年生・中学 2 年生の貴重な音楽体験の場がなくなってしまった。
- いままでの合唱のベースがあるので、それを活かした掛川らしいコンテンツ、生涯学習センターの利用をしていただきたい（館長）
- 地域部活について、掛川市は令和 8 年夏に学校から地域に完全移行を目指している。運動系は体育協会が担当するが、文科系は各団体がそれぞれ個別に動いている状況だ。活動の場が学校外となることで、会場費や騒音問題などが懸念される。
- 音楽系以外の文科系部活について、文化財団の取り組みをうかがいたい。
- 現在、デジタルクラブと美術クラブが活動している。令和 6 年度より、工芸クラブ、料理クラブ等を立ち上げる予定である。
- 生涯学習センター竣工時（昭和 58 年）からリズム発表会を実施し、子供達に貴重な経験を与えてきた。三館の様々なイベントが市民に周知されていない、効果的な情報発信の方法があるのではないか。
- シオーネは施設のサイズは良いが、不便である。周辺に飲食店やコンビニがないため、飲食が課題である。軽食等ができる環境があればと思う。
- シオーネは建設時から携わっているが、とくに音響にはこだわって作った施設である。
- シオーネのある南部地域について、クラシックコンサートは市場性が厳しいのが実情である。（館長）
- シオーネは交通の便が悪いのが最大のネックだ。イベントの開演終演時間に合わせて「三館周遊バス」のようなものがあると良いと思う。客の高齢化にともない、（免許返納などで）交通手段の確保が難しくなってきた。また地域部活についても、子供の活動範囲は狭いため、特に夜間は親の送迎が必要になる。
- 文化イベントのチケットは学習センターで購入が当たり前になっているが、チケットが街中のスーパー等で気軽に購入できるとありがたい。また生活者に密着した場所での情報発信。三館共通もしくは市内の文化イベントが 3 ヶ月先までわかるような場所があるといいと思う。
- 地域部活は送迎の問題がある。美感ホールの駐車場不足が課題。シオーネは音響が素晴らしいので生涯学習センターも音響がもっと良くなるとありがたい。
- 客の高齢化により夜間本番の集客が難しくなっている。掛川シティコースも高齢化により団員数の減少し、120 人から 60 人に半減した。夜間練習も難しくなっているのが実情。